

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～

・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体
発行責任者 尾崎 朋子
文 責 佐々木正道
発行日 平成31年2月28日

「想像」と「創造」

校長 尾崎 朋子

昨年末から全国的にインフルエンザが流行しましたが、幸いにも本校では学級や学年を閉鎖するほどの広がりにはならず、3年生は無事私立高校の入試や公立高校の推薦入試を終え、2年生は宿泊研修を予定通り行うことができました。そしてその宿泊研修では宿泊施設のネイバルから「完璧団体賞」をいただきました。この賞は、施設の利用態度や研修態度がすばらしかった団体に贈られる賞と聞き、大変うれしく思っています。宿泊研修の時だけでなく、日頃から取り組んできたことが形となってしっかりと現れたのだと思います。この研修で得た成果が、今後学年はもちろん、学校全体に広がってくれることを期待しています。

さて、最近話題になっている『わけあって絶滅しました。』という本の中に興味深い記述がありました。5万年ほど前、私達ヒトの祖先と、生物学上ヒトと非常に近いネアンデルタール人が共に存在していました。ネアンデルタール人はヒトよりも筋肉質で力が強く、脳のサイズも大きかったと言われています。しかしネアンデルタール人は滅び、ヒトは生き残りました。その理由として、ネアンデルタール人は「想像力」が足りなかったからだという説があります。皆で一つの神を想像して群れの結束を固めたヒトに対し、食料である動物の肉を得ることだけを考え、家族単位での小さな集団しかつくれなかった彼らは、協力して生活するということをしなかったために絶滅してしまっただと考えられています。一方、私達ヒトの祖先は、家族や仲間を信じて協力し合い、そこから生まれる他者や食べ物などへの感謝の気持ちを大切に生きてきたことで生き延びてきたと言われています。



「IMAGINE」という曲の中で、「想像してごらん」と争いのない平和な世界を思い描くことを歌ったのはジョン・レノンでした。また、精神科医の香山リカ氏は、現代社会は、他者の立場に自分を置いて考える「想像力」が低下していることに警鐘を鳴らしています。

人と関わる中で「こんなことをしたら相手がいやだろうな」「自分がこんなことをされたらいやだな」と想像する力があれば、お互いに気持ちよく過ごすことができ、いじめもなくなるかもしれません。

また、学習面においても、作者や登場人物の気持ちを想像したり、結果を予想してから実際にやってみることで、知識や理解がより深まると思います。

漢字は異なりますが、読みが同じである「想像」することと「創造」することは実は深くかかわっていて、先を「想像」することで次のステップを「創造」することにつながることができるのではないかと思います。

私達の祖先が想像力を大切にしていかに協力してきたことは、これからの時代を生きる子どもたちにも大切にしてほしいことのひとつです。